

□ 要請番号 (JL63019B09)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
モザンビーク	G239 服飾	20～45歳のみ	個別	新規	2年	・ 2020/1 ・ 2020/2 ・ 2020/3

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

文化・観光省

2) 配属機関名 (日本語)

国立視覚芸術学校

3) 任地 (マプト州マプト市) JICA事務所の所在地 (マプト市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (徒歩 で 約 0.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

1983年創立の国内唯一の芸術分野の職業訓練教育校で前身は1977年に設立された文化研究センターである。国を代表するアーティストが教壇に立ってきた。本校でグラフィック・デザインとビジュアル・アートの授業が、分校(中国政府の支援で2010年落成)で陶芸とテキスタイルの授業が実施されている。中級レベルの教育機関に位置付けられ、10年間の基礎教育を終えていることが入学条件。生徒の年齢は14から20歳以上までとばらつきがある。卒業後は大学のコミュニケーション・アート学科や芸術文化高等機関に進学する者もいる。本校舎には図書館、アンフィシアター、展示室があり、分校には陶芸窯やスポーツ施設がある。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

モザンビーク政府は産業人材の育成を重要課題の一つとしている。しかしながら服飾産業に関していえばアジアなどからの中古衣料の販売が盛んで、かつ輸入品のアフリカン・バティック生地を使った服装が好まれているため、自国製品の製造業が育っていない。また、専門に学ぶことができる学校がほとんどなく、指導者も少ない。他方、首都ではファッション・ウィークが10年ほど前から開催され、若手デザイナーの活躍の場も出てきている。着飾ることが好きな国民性でもあり、市場拡大が想定されるため、人材の育成が望まれている。同校ではそうした状況を受け、就業や起業のために服飾を学ぶ生徒を指導し、教員の技術向上を図ることを目的として本要請を行ってきた。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- 服飾の授業を担当し、修了後に起業・就業できるだけの基本的な知識とスキルを生徒に伝え、身に付けさせる。基本は手工芸で染色、織物、型付け、型紙づくり、裁縫等の基礎を伝える
- 服飾・デザインにおける日本の技術や知見を共有し、同僚の技術向上に貢献する
- 学校事務を支援する

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

ミシン4台

4) 配属先同僚及び活動対象者

校長:男性、40代
カウンターパート:男性、40代、コミュニケーション・デザイン学部出身
教員・職員数:31名、うち教員は23名
学生数:170名(全校生徒)

5) 活動使用言語

ポルトガル語

6) 生活使用言語

ポルトガル語

7) 選考指定言語

英語(レベル:D)

【資格条件等】

[免許]：（ ）

[学歴]：（ ） 備考：

[性別]：（ ） 備考：

[経験]：（実務経験）3年以上 備考：配属先の要望

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（サバナ気候） 気温：（10～40℃位）

[電気]：（安定）

[通信]：（インターネット可 電話可）

[水道]：（安定）

【特記事項】